

2012年度第4回運営委員会報告

全たばこ労組会議室で行われた標記委員会の報告を下記の通り致します。

(日 時) 2012年4月26日(木) 15:00-17:10

(出席者) 江森、山田、岡野(フード連合)、徳田、郷野、中野(UIゼンセン同盟)、小川、大谷、川岸(全国農団労)西川、岡本(サービス連合)、中田、高田(JCC事務局)、合計13名(敬称略)

報告事項

1. 第36回海外労働学校手配進捗報告

現時点での申し込み人数は、20単組23名。

労働学校の日程は2012年6月20日(水) - 7月1日(日)の12日間。

準備会は2012年6月13日(水)午後。

4月11日請求書発送(465,000円/人)。

【コメント・意見・質疑応答】特になし。【結論】承認された。

2. IUF-A/P 女性委員会・セミナー報告

日 程 : 3月25日 セミナー

: 3月26日 女性委員会

場 所 : カンボジア シェムリアップ

【コメント・意見・質疑応答】特になし。【結論】承認された。

3. TCCC アトランタ会議報告

日 程 : 3月28日-29日

場 所 : 米国アトランタ

【コメント・意見・質疑応答】特になし。【結論】承認された。

4. NGO 労働組合国際協働フォーラム HIV グループ スタディーツアー報告

日 程 : 3月18日-23日

場 所 : タイ ウボンラーチャターニー県、バンコク

内 容 : HIV 陽性者やMSM、セックスワーカーのグループ活動、現地医療機関との協働による保健衛生教育活動の見学・体験、JILAF およびセブンシスターズのタイ事務所を訪問しての意見交換を行うなど、NGO 現地支援活動の実態やタイにおける HIV 対策を視察した。

【コメント・意見・質疑応答】特になし。【結論】承認された。

5. NGO との協働

(1) NGO・労働組合国際協働フォーラム

- 3月18-22日にHIVエイズ等感染症グループでスタディーツアーを実施。
- 4月16日合同企画委員会を開催、フォーラムの今後について討議した。
- 4月28日のメーデーにHIVエイズ等感染症グループ、児童労働、母子保健の各グループで出展し、活動紹介や啓発活動を行う。

(2) 児童労働ネットワーク (CL-Net)

- 3月14日総評会館にて、研究会「エシカルな鉱物・金属調達を企業に求める」を実施した。国際青年環境 NGO、A SEED JAPAN の加治氏を講師に招き、企業に対する働きかけの方法や、公開質問状の結果から見えてくる企業の意識や企業に働きかける意味について講演した。
- CL-Net、NGO 労働組合国際協働フォーラム、ILO 駐日事務所の3者共催の児童労働反対世界デーに合わせたメインイベントを6月10日に実施する。元こども兵士のミッシェル青年をゲストに、「紛争鉱物、携帯電話、こども兵士」をテーマに開催する。
- 別紙の通りキャンペーンを実施する。今年度も署名活動にご協力をお願いしたい。また、ツイッター等を利用した、広報、情報拡散への協力を合わせてお願いしたい。

【コメント・意見・質疑応答】

- メーデーではHIVグループのブースに立ち寄り願いたい。
- 児童労働の署名、今年目標数は？
⇒ 数は年々拡大している。目標を数にすると際限が無い。また真の目的は数の増大ではなく、関係省庁等との面談や働きかけにあることから、今年は数の目標を設置しないこととした。
- エシカルな鉱物とは？⇒下記参照

【結論】承認された。

＜エシカルな鉱物＞

私たちの身近にある様々な電子機器、カメラや携帯電話などの小型家電。それらに含まれる金属を調達する過程で様々な環境問題、社会問題が起きている。鉱物資源の採掘現場では、生物多様性の破壊や先住民コミュニティの強制退去、児童労働などの深刻な問題が生じてきた。また、採掘に絡む利権が紛争を助長させている側面もあり、採掘問題は実に多様な問題を抱えている。

我々の便利な生活の裏で、今も多くの人や動物が傷ついている。こうした事実を踏まえ、採掘問題の認知を広め、採掘問題の解決を目指し、国際青年環境 NGO A SEED JAPAN は、2010年7月にエシカルケータイキャンペーンを開始した。人も動物も傷つけない「エシカル」（倫理的・道徳的）な金属調達を求め、市民・団体の賛同を募っている。また、人権、環境に配慮された金属を用いた製品をメーカーに対して求めていくために、メーカーに対し、メーカーにおける鉱物・金属調達の際の環境・社会配慮などについて質問する公開質問状を実施している。

6. 争議支援・連帯活動

【緊急行動要請】※更新中

No.	国	当該組織・企業	内容
19	エジプト	CTUWS	政府による結社の自由、表現の自由の侵害
20	ニュージーランド	Talleys/ Affco	労働争議、使用者によるロックアウト
21	イラン	教育インターナショナル	組合役員の不当逮捕、死刑判決
22	スペイン	CC.00、UGT	労働法改正反対 ゼネスト支援
23	インドネシア、パキスタン	ネスレ	ネスプレッシャーキャンペーンの再開
24	コートジボワール	Dignite	組合役員の不当逮捕

【個別争議対応】

- パシフィック・ビーチホテル

4月11日にJATA（日本旅行業協会）を訪問し、状況を報告すると共に、争議解決への協力を依頼した。JATAから現地経営に対するレターの送付を検討中。また、当該業界におけるCSRの追求、国連グローバルコンパクトやISO26000への対応などについて意見交換を行った。

- 水産部門、ITFとの協働プロジェクトへの地域活動基金の出資

ITFと協働している水産部門で、パプア・ニューギニアの水産加工労働者の組織化キャンペーンに対する4,500豪\$≒40万円の拠出について3月末に提案を受け、メールベースで各組織に確認し、承認した。

【コメント・意見・質疑応答】特になし。【結論】承認された。

7. 各組織報告

- フード連合：

- 春闘関連

- ⇒ 4/19集計：平均方式 109 組合 5,642 円 1.90%（昨年同時期 5,407 円 1.78%、一昨年同時期 5,428 円 1.83%）

- ⇒ 300人未満の組織は、3月末時点では前年を下回っていたが、4/19集計では同一組相比加重平均で4,045円1.66%と、67円0.06%のプラスとなった。

- ⇒ 妥結組合は113組合（昨年同時期78、一昨年98）

- ⇒ 定昇把握できる75組合の内20でベア、賃金改善獲得、54が定昇確保、定昇割れが1。

- 食の安全・安心（毎年6月に取り組み）

- ⇒ 食を大切に「食べ残しゼロ運動」適量オーダー、ドギーバック、フードバンク、セカンドハーベストジャパンとの連携

- ⇒ 食の安全安心強化月間

- 被災地への支援。第2回大手主要組合会議を6月に福島で開催、翌日に被災地の視察予定。

- ACEと連携し10周年を記念して加盟組合役員を対象にガーナの視察を企画。労組の社会性の面から児童労働を学ぶ。

- UIゼンセン同盟：

- 春闘関連

- ＜単純平均＞

- ⇒ 4,574円1.74%妥結組合624、昨対比+176円。186組合が賃金改善、237円。

- ⇒ フード関係は68組合妥結5,265円1.95%、昨対比+673円。賃金改善5組合468円。

- ＜加重平均＞

- ⇒ 5,015円1.80%。賃金改善は284円0.11%で昨対比+2円

- ⇒ フード関係は5,154円1.91%。賃金改善5組合75円。

- ＜短時間労働者＞

- ⇒ フード全体で11.4円、昨対比+5.1円

- ⇒ 5,015円1.80%。賃金改善は284円0.11%で昨対比+2円

- ⇒ Aタイプ16.5円1.9%、Bタイプ22.4円2.0%、Cタイプ15.8円

- ⇒ UIZ全体では15.9円1.8%

- 産別統合関連（UIZ+JSD）

- ⇒ 1産業1産別が望ましいとして1991年から始まった話。2007年時には名称と会費水準

- ⇒ 問題で一旦流れたが、協議が再開された。
 - ⇒ JSD は 4/18 臨時大会で新産別結成を決議。
 - ⇒ 名称（正式）「全国繊維化学流通食品サービス…」は旧ゼンセンから変更なし。総称は「UA ゼンセン」A の解釈は互いに様々、あえて定義しない。UIZ としては、名称から外れた同盟を意味するアライアンスという解釈。
 - ⇒ 11 月 6 日パシフィコ横浜で、新組織の結成大会を予定。
 - ⇒ 会費は UIZ の 800 円に 2015 年までに統合。暫定措置期間は旧 JSD の資産等の活用を検討。JSD は現在 500 円（5 千人以上部分 400 円、1 万人以上部分 300 円）
- 震災復興関連 被災地の水田で、塩害対策に効果がるということで、綿花の栽培活動を昨年からの実施。今年は規模の拡大を図る。種まき、除草、刈り取りなどに協力
- 全国農団労：
 - 春闘関連
 - ⇒ 109 単組 1%程度のパア、賃金改善を方針に取り組み。要求段階でパア 77 組合、体系是正 23、手当改善・新設 35、格差（合併時）是正 25 を要求。
 - ⇒ 定昇の回答 52 単組、妥結 20 単組、パア賃金改善等 5 単組。20 単組単純平均で 6,017 円 2.32%。加重平均 6,330 円 2.27%。今後の妥結を加えていけば、例年と同じくこれを 500 円程度下がる数字となるだろうと予測。
 - ⇒ 4 月内決着を目標としているが、遅いところは例年 5 月末でずれ込む。
 - 震災関連
 - ⇒ 全ての JA グループ（農協、全国連、農林中金、全共連等）の出資による、震災・原発事故からの復旧復興基金の設立を図っている。
 - ⇒ 基金の目的は、放射線汚染問題への対策。出荷所に測定器を設置、検査数値を自主的に開示し食の安全をアピール、信頼回復につなげる等。
 - ⇒ 全ての農協経営者に応分の負担と内外に対する適切な情報発信を要求。現在までに 109 のうち 74 単組で要求済み。残る単組も早急に取り組む。
 - ⇒ 労金労組の全労金が、被災地復興として会津いいで農協の農産物ワンパッケージ 4,000 円、1,000 パックを労組員に 2 回販売頂いた。当該農協労組と全労金の交流も深まり、労働組合の連帯に対して、モチベーションが高まっている。
 - ⇒ 本日オブ参加の川岸副委員長の出身、富山農協労組でも独自の支援を継続している。農産物の提供や、プランターでの育成セット提供等。
- サービス連合：
 - 春闘関連：現在集計中。中小が多く、まだ妥結に至っていない。大手は、パアは取れていないが全てで定昇を確保。一時金は大手では昨対比でプラス。

協議事項

1. IUF A/P 地域委員会に関して

日 程 : 7月 28-29日 HKCTU 国際会議「中国における団体交渉と労働者」
: 7月 30-31日 地域委員会

場 所 : 香港

- 地域委員会出席者は、HKCTU 主催の会議にも招待されている。同会議の開始は 7 月 28 日の午後 2 時
- 地域委員会の会議、宿泊は 2010 年の開催と同じホテル。
- 宿泊費 [27-28 日 : HK\$ 1,221/日、29-31 日 : HK\$ 1,111/日]
- 会議パック (会議室、ランチ、ティーブレイク) [HK\$ 605/日/人]

(香港ドル HKD 1≒11 円)

【コメント・意見・質疑応答】

- 現時点で参加者はフード連合 8 名、UI ゼンセン同盟 2 名、農団労 1 名、サービス連合 1 名となっている。
- 現時点で提出されている資料は議題案のみ。

【結論】

- 参加人数の変更については 6 月 15 日までに JCC に連絡願いたい。

2. IUF A/P 部門会議に関して

日 程 : 10月 3-4日 HRCT 会議 クアラルンプール (マレーシア)
: 10月 8-9日 食品飲料会議 クアラルンプール (マレーシア)
: 10月 11-12日 農業会議 チェンナイ (インド)

【コメント・意見・質疑応答】

- 女性委員会を 10 月 2 日 クアラルンプールにて開催予定。
- JCC より会議の間を詰める等、日程の改善を要請をしたが、A/P 事務局の都合がつかず、上記の日程で確定した。
- 現時点で配布されている資料はない。

【結論】

- 各会議への積極的な参加を確認した。

3. IUF A/P 会計監査に関して

日 程 : 5月 17日 世界総会開催中に実施する。 ジュネーブ (スイス)

- マ書記が来日しての実施を模索したが、日程が取れないため、総会中の合間に実施する。17日の会議終了後、夕食会までの時間を予定している。

【コメント・意見・質疑応答】 特になし。【結論】 了解された。

4. 世界総会に関して

(1) 出席者と各組織の代表性 (投票権) の確認

【コメント・意見・質疑応答】

- 参加者が 1 名の場合、残り 2 評を委任できるか? (ジェンダーバランスの関係)

【結論】

- 各組織の余剰投票権 (UI ゼンセン同盟 1 票、農団労 2 票、サービス連合 2 票) は、各組織参加者に委任する。

- 委任の疑問については本部に確認する。

(2) 総会議題およびタイム・スケジュールの確認

【コメント・意見・質疑応答】 特になし。

(3) 規約改正案の確認

【コメント・意見・質疑応答】

- IUF 三役会、副会長にも、40%のジェンダーバランス適用することは、現実的に問題を生じないか？
 - ⇒ 現在でも 11 名の副会長の内、5 名が女性である。会長と書記長を含めた三役会で 13 名では、40%を超える（5.2 人）には、正確には 1 名不足となるが、実行可能なレベルにあると言える。

【結論】 総会での採択は、全て決議委員会の推薦に沿う。

(4) 決議案の確認

【結論】

- 総会での採択は、全て決議委員会の推薦に沿う。
- 決議 2 の「出席の資金調達」について、事前の三役会で確認する

(5) 会費値上げの件

会費値上げの理由として、物価上昇、スタッフの人件費アップ、国際的に取り組むべき活動の要請の高まりなど、これまでの値上げの際と同じ理由が上げられている。JCC は、前回の運営委員会での議論を踏まえ、値上げに反対する意見書を本部事務局と三役会に提出した。

これに対して、マ地域書記からはアジアの加盟組織は、財政的困難は事実としながらも、自らの利益のためにも強い IUF を求めるとの考えから、東南アジアの途上国、豪州、NZ らの先進国共に、値上げに賛成の立場であることを確認したとのコメントがあった。また、総会での採決に先立ち、合意可能な妥協案が模索できるとし、今後値上げ幅が引き下げられる可能性を示唆した。

本部オズワルド書記長からは、ニルソン会長が三役メンバーからの意見を集約中であり、追って会長からコメントがあるとの返答があった。世界総会や事前の三役会、執行委員会への提案時には、コンセンサスを得た提案ができるよう、議論を重ねたいとのこと。

その後、ニルソン会長から当初値上げ幅を半額に引き下げた譲歩案が提案されたが、これについても、原則として反対の立場で再び日本から意見書を提出した。

しかし現時点では、世界総会の資料として譲歩案での提案が既に配布されている。

【コメント・意見・質疑応答】

- 日本の意見は IUF 本部でも重く受け止められているが、総会までに合意案を形成に至ることは困難だろうとする、グリーンフィールド副地域書記からのコメントを紹介。
- 最終的に合意すれば、日本は結局納得してくれるとの印象を与えかねない。
- 安易な妥協は、今後の値上げ提案の繰り返しを助長する。
- 会費値上げへの対応策として、地域活動基金の停止も視野に入れる必要がある。
- JCC 三役会では、0.05 スイスフラン以上の値上げには明確に反対を維持するべきとの結論。

【結論】

- 総会直前の IUF 三役会、執行委員会でもはっきりと反対の主張をし、総会での提案を変更さ

せるよう、最善を尽くす。

- 総会で限度額以上の値上げ提案が実行された場合、反対の意見を表明した上で反対票を投じる。
- 地域活動基金については、会費値上げとバーターとするのではなく、切り離れた議論として余剰金と例年の支出を鑑み、毎年の出資を見直す必要がある。7月の地域委員会で、当面の拠出凍結を前提とした見直し案を、日本から提案する。
- 本運営委員会の結論を、ウェイ・ピン地域書記、グリーンフィールド副地域書記に通知する。

(6) 執行委員選出の件

【コメント・意見・質疑応答】

- ジェンダーバランスは、枠毎ではなく、執行委員全体を対象に管理される。
- 全体のバランスは本部書記局が調整することとなるが、一旦出た結論を調整するには相当の困難が伴うだろう。
- 枠内での調整は、地域書記の果たすべき責務である。

【結論】

- 日本としては現状のポジションを維持することを前提に、枠内の他組織と協議する。

(7) 各加盟組織として総会で主張したいポイント、予定している発言に関する情報交換

【コメント・意見・質疑応答】

- UIゼンセン同盟では、主張について現在鋭意検討中の段階である。
- 多くの活動や課題が継続されたものであることから、継続して主張することも重要。
- 会費関連で強い反対の立場をとることもあり、一方的にならないよう、協力・連帯についてもアピールできる意見も是非盛り込みたい。
- 各意見が適切に表明できるよう、事前にIUF本部と調整を図りたい。

【結論】

- 各加盟組織からそれぞれ2つ程度の発言を準備し、事前にJCCまで送付する。
- また、どのポイントで発言したいかについても、合わせて連絡する。

5. 次年度年間スケジュール

- (1) 前回提案の次回拡大運営委員会は、IUF-A/Pの部門会議の日程と重なるため、変更する必要がある。10月25日（木）とすることで確認したい。

【結論】

- 今後変更があれば、随時JCC事務局に連絡する。

今後の予定

- 第83回メーデー中央大会：4月28日、東京
- IUF女性会議：5月12-13日、ジュネーブ
- IUF三役会：5月14日、ジュネーブ
- IUF執行委員会：5月15日、ジュネーブ
- 第26回IUF世界総会：5月15-18日、ジュネーブ
- 児童労働反対世界デーイベント：6月10日、東京
- 第36回海外労働学校準備会：6月13日、東京
- 第36回海外労働学校：6月20日-7月1日、スイス、スウェーデン
- A/P地域委員会：7月30-31日、香港

以上